



「布団や座布団は、普段あたりまえのようにあって、あたりまえのように使われて、あまり日のあたるものでないから、賞を受けたときは日の目を見たような気がしてとてもうれしかった」と吉川さん。

研究を重ねよい物を作る 寝具づくりに一生をかける 現代の名工

きっかわていじ

吉川貞治さん

(寝具職人・労働大臣表彰受賞)



10月19日、さまざまな職業のなかで卓越した技能を持つ「現代の名工」の労働大臣表彰式が行われ、狭山台にお住まいの布団職人・吉川貞治さんが同賞を受賞されました。吉川さんの受賞は、法事など仏事のときに導師が座る「導師座布団」などの製作技能を確立し、その製法が全国的に定着、布団業界の発展に寄与したことを認められたものです。

吉川さんは19歳で宮城県より上京し、都内で布団の販売と技術見習いを始めました。寝ているとき以外は仕事をしている毎日です。「この仕事でいいのかな？」と疑問を感じたこともありました。そう思いながらも休まずに仕事を続け、自分の腕を磨くこと10年、同じように技術を持った仲間たちと独立しました。

「みんな集まると夜通して技術のことをよく話しました。」と当時を振り返る吉川さんは仲間と話したこと



時間を短縮して、よりよい物を作るスピーディーで正確な手さばきが要求されます。

返る吉川さんは仲間と話したこと
を図面にし、何度も作り直しては研究を重ねたそうです。

今でも、自分の持ち味が出せる座布団づくりは研究が難しい分やりがいがあると日夜研究を続け、座布団は、見た目の良さと座り心地の良さは別物だから、その両方を兼ね備えたものを作ることは難しい。研究のしがいがありますよ。」とよい物を作ることに妥協をしません。

また、数々の賞を受けた今でも、「自分で工夫して、それを発表する機会があることは楽しみです。はげみにもなります。競い合うことで改良や開発も進み、従来にはない物ができますから。それに皆さんにも知ってもらえる機会が増えるからね。」と、技能を競う「コンクール」などに積極的に参加しています。

そんな吉川さんに、今後はどういうものを作りたいですかと尋ねたところ、今度は浮世絵の丸座布団に挑戦したいね」と現代の名工は次の作品へ意欲をのぞかせました。

私の趣味

樹木医

奥山有一さん(水野在住)



昔から土いじりや花や樹木が好きだった奥山さんは、仕事の第一線から退くのをきっかけに、基礎から樹木のことを勉強してみようと、造園科のある職業訓練校に入りました。仕事を終えた第2の人生を、体を動かすことにしようと考え、それなら自分の好きな分野で人の役に立ちたいと思ったからです。今は、自分のやったことが形として残り、みんなが喜んでくれることがうれしい。自治会で花壇をつくり、花いっぱい運動を行い、老人クラブでも生きがいになるような生き方を樹木・花を通じて提案したり。」と人のためにしたことが自分のためにもなると奥山さんはおっしゃいます。現在は好きがこじつじて樹木医となった奥山さんは、樹木がただ好きだった昔は、大切にしていた山桜を枯らしてしまったことがある。それは、知識が乏しかったから。好きなら少しは勉強しなくちゃいけないね。」と話してくれました。

ごみの減量、リサイクルを進めるために『ごみの分別』と『再生品の利用』を実行しよう



古布の定期回収や集団回収の支援、リサイクルマーケットなどの各種事業を推進し、ごみの減量、リサイクルに取り組んでいます。今回、リサイクルイベントに参加し、ごみ減量・資源リサイクル推進チームの仲川リーダーにお話を伺いましたので報告します。



リサイクル推進するために私たちは何をすればよいのでしょうか。仲川リーダーに伺った、『ごみの分別』と『再生品の利用』を進めて欲しいとのことでした。集積所に出されるごみのなかには、リサイクルすることができない紙ごみなどが多く含まれていても、やすこごみの中の紙類を10%分別すれば、リサイクル率も3~4%は上がるそうです。また、購入時にリサイクルできる原料でできたものや再生品を購入するようにしたり、家庭で不用になったものはリ

REPORTER'S EYE



【リポーター】
佐藤久江さん(富士見在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

狭山市は、平成8年11月2日、全国で3番目となる「リサイクル都市」を宣言し、平成22年度までにリサイクル率を30%に、ごみ減量目標量を1人1日100g(たまご約2個分)に定めました。宣言を実現するため、ごみ収集袋の透明・半透明化、古紙・古布の定期回収や集団回収の支援、リサイクルマーケットなどの各種事業を推進し、ごみの減量、リサイクルに取り組んでいます。今回、リサイクルイベントに参加し、ごみ減量・資源リサイクル推進チームの仲川リーダーにお話を伺いましたので報告します。

それが、『ごみの減量』『リサイクル』を推進するために私たちは何をすればよいのでしょうか。仲川リーダーに伺った、『ごみの分別』と『再生品の利用』を進めて欲しいとのことでした。集積所に出されるごみのなかには、リサイクルすることができない紙ごみなどが多く含まれていても、やすこごみの中の紙類を10%分別すれば、リサイクル率も3~4%は上がるそうです。また、購入時にリサイクルできる原料でできたものや再生品を購入するようにしたり、家庭で不用になったものはリ



ちが古布として出した衣類はそのまま使えるものは古着として海外などへ輸出され、加工が必要なものは機械にかけて綿やフェルトにして断熱材や建築資材となり、ウール類などは糸に再生されツイードなどの生地にも再生されます。しかし、現在繊維リサイクル製品への需要は頭打ちの状態にあり、回収された衣類の一部は再生されずに処理される場合もあるそうです。

今回は、『ごみの減量』『リサイクル』を推進するために私たちは何をすればよいのでしょうか。仲川リーダーに伺った、『ごみの分別』と『再生品の利用』を進めて欲しいとのことでした。集積所に出されるごみのなかには、リサイクルすることができない紙ごみなどが多く含まれていても、やすこごみの中の紙類を10%分別すれば、リサイクル率も3~4%は上がるそうです。また、購入時にリサイクルできる原料でできたものや再生品を購入するようにしたり、家庭で不用になったものはリ